
ヨーロッパ難民 02

西山 和宏

ドイツは、なぜ難民を歓迎するのか？

今年9月8日、ハンブルグで、FCセント・パウリ対ボルシア・ドルトムントのサッカー・テスト・マッチで、「大声で、はっきりと、ここへの難民を歓迎；SAY IT LOUD, SAY IT CLEAR. REFUGEES ARE WELCOME HERE！」と書かれた大きな横断幕が掲げられた。ドイツは、多数の難民を歓迎し、大きなチャンスだと感じている。

ドイツの人口 8,100 万人は急速に高齢化し、出生率は低く（ドイツ 1.38、日本 1.43：2013 年）、総人口は横ばい、何百もの学校が閉鎖されている。特に東部地区ではゴーストタウンが増えている。労働者不足が深刻な問題で、移民・難民の増加は記録的になっている。

アンゲラ・メルケル首相は、ドイツという国の在り方が転換し大きく変化すると言っている。イスラム・テロを警戒する声もあるが、メルケル首相は、新しい移民・難民について、「彼らはドイツ語を学び、大急ぎで仕事を探さなければならない。彼らの多くは、ドイツの新しい市民になる。よりよく世話をすれば、リスクよりも多くのチャンスをもたらすことになる」と言った。

産業界のリーダーたちも、労働年齢の移民・難民の大量移住を歓迎している。ドイツのいくつかの大学では、難民に無料講座を開設している。政府は移民・難民の子供と成人を対象に、ドイツ語教室を開設している。ドイツの失業率は、ヨーロッパで最低の 4.9%。ちなみに、イギリス 5.4%、フランス 10.1%、スペイン 22.6%、日本 3.2%（IMF 調べ）特にシリアからの難民には、医者・技術者・建築家など、教育レベルが高い熟練者が多いために歓迎されている。

ドイツの移民・難民を歓迎する状況は、ギリシャ、イタリア、スペインなど経済が低迷している地域、さらには、イスラエルやインドの人々にとって、新しい「希望の土地：promised land」になりつつある。

今やドイツは、最も移住したい国として、カナダと英国を抜いて、米国に次ぐ、2 番目の国になっている。しかし、だれもが歓迎しているわけではなく、難民センターへの放火騒ぎも起こっている。

ドイツが多数の難民を受け入れて、さらに経済力を強化することをフランスや英国はこころよく思うであろうかという疑問がある。

1960年代から1970年代にかけて、トルコからドイツにやってきた人々は、いまだに彼らだけのコミュニティに閉じこもっている。全面的なドイツ社会への溶け込み、文化変容には幾世代かを経なければならないかもしれない。

1970年代のドイツでは、外国人労働者が全体の20%を構成するまでになり、彼らの存在が社会問題になった。そのため、トルコ出身者を母国に送還するために、トルコ語を話せない子どもたちにトルコ語教育を行い、バスをたてて、親子ともども送り返した。おそらく、なにがしかの帰国支度金も渡したと思われる。

1980年4月に訪れたフランクフルトは繁栄していたが、治安がよいとは感じられず、外国人労働者が増えるとは、このようなことかという印象を受けた。その際、同行者がホテル内で朝食後、中東移民と思われる者に、例のホットコーヒー（ココア）を背中にかけられ、注意されて脱いだ上着からパスポートを抜かれた。私もホットコーヒーをかけられていたが、そのときは気付かず上着を脱がずに難を逃れた。

そのことを警察署に行き届けると、外国人登録事務所に行けと言われた。で行くと、そこには滞在延長を申請する外国人が溢れていた。結局、幸いにも宿泊していたホテルの別館に日本公使館があり、そこでパスポートの再発行を受けた。

ハンガリーは、ドイツ、オーストリア、スウェーデンなど北へ向かう移民・難民の数の多さに処理に窮して、急遽、国境に高さ4メートルのフェンスを設け、催涙ガスや放水銃で追い払い始めた。



クロアチアは、彼らに救い手を差し伸べた。移民・難民は、クロアチアからの通過を目指して移動した。しかし、そこでもすぐに行く手を遮られた。

移住先としてのドイツ

広く感謝されているわけではないが、現在、ドイツは世界で最も人気が高い移住先の1つである。現在、ドイツの人口約8,100万人の内約1,100万人、つまり8人に1人が外国生まれ。労働人口では7人に1人、移民のルーツを持つのは5人に1人。

（難民を含む）移民居住者が多いのは、ベルリン、ハンブルグ、ミュンヘン、ケルン、フランクフルトなどの都市で、旧東ドイツには少ない。

ドイツの移民比率はヨーロッパで最も高い。ドイツへの移民の3分の2以上が別のヨーロッパ諸国からで、EU国内からは36.6%。最も多い出身国はトルコで外国人の13%を構成。次いでポーランド11%、ロシア9%。これらにカザフスタン7%、ルーマニア4%、イタリア4%が続いている。

初期の外国人労働者は、ギリシャ、スペイン、トルコからやって来て定住した。彼らの子供たちは、幅広い職業のチャンスを求めた。今日では、公務員やメディアを含めて、いろいろな職種に就いている。ヘルスケア、エンジニア、IT（情報テクノロジー）、その他の商業および技術分野での雇用は増加傾向にある。また、自営業者も多く、現在、その数は70万人を越えている。

混乱する国境の町

オーストリアから列車でドイツへ入国した移民・難民が、最初に訪れる町は、整然とした家並み、窓からアルプス山脈が見える田舎町のフライラッシング（Freilassing）である。数日間で、この町の人口約15,000人と同数の移民・難民が通過した。

この町の治安は、メルケル首相の難民歓迎の声明で悪化した。窃盗や強盗、その他のトラブルが起これ、護身用に拳銃を持ち、ショットガンを購入した人もいるという。



移民・難民の流入を公然と批判すると、極右かネオナチのレッテルを貼られるため公言できないという。

それでも無料コーヒーの提供などの手助けを行っているが、あまりにも数が多すぎて手に負えないと言う。

<http://www.gettyimages.fr/detail/photo-d'actualit%C3%A9/german-policeman-attempts-to-manage-migrants-who-had-photo-d'actualit%C3%A9/488454796>